

教育実践総合センター事業の主な取り組み

本センターは、「教育」「研究」「社会貢献」の三分野における実践研究指導センターとして、教育インターンシップや教育実習等の支援を主に行う「学生支援領域」と、地域の教育関係諸機関や現職教員との連携の支援を主に行う「地域教育支援領域」について行っています。

教育実習

学校現場での実習から多くのことを学びました

「失敗」が自らを成長させる

人間開発学部 専任講師 寺本 貴啓

実習訪問で事後指導をすると「先生、授業がうまくいきませんでした」と言われることが多い。そのとき私は、どうして失敗なのか詳しく聞くことにしている。その理由は、同じ失敗であっても、しっかり考え努力した上での失敗か、何も考えず努力しなかった(気付いていなかった)上での失敗か、わからないからである。つまり、失敗に至るまでの過程がどうなっているのかを確認しているのである。

このとき、ある視点からみると真剣に授業を考えているのだが、別の視点からその授業をみると検討が不十分であるということがよくある。

例えば、子どもたちに自主的な学びを促したいと思い、子どもたち自身が自主的に考えるように子どもたちに任せる授業をしたとする。しかし実際に起きた問題は、考える時間が確保されたにも関わらず、教師が子どもたちにあらかじめ「考える術」や「考えるための知識」を与えていないために戸惑ってしまったのである。

近年の大学生は、インターンシップやボランティアで進んで学校現場に入っている。その理由を聞くと「いい先生になるための知識や技能を身につけたい」「授業に失敗しないように授業のしかたを知りたい」と答える。

この答えからもわかるように教員になったときに「失敗をしたくない」と考えていることがわかる。しかし私は失敗があるからこそ、「成功の必要性」や「成功に至る細かな工夫」がわかると言いたい。失敗を恐れて「まずはたくさん学んでから」と、慎重になり一步踏み出すことを躊躇するくらいならば、積極的に出て失敗をしてほしい。最初から成功する授業は、本当に自分のものとなって成功に至っているか甚だ疑問である。偶然「成功した」場合も多いからである。生涯をかけて失敗を恐れず積み重ね、本当の意味での実力を積んでほしいと思う。

教育実習から

健康体育学科 4年 大平 優花

私は母校ではない都内の区立中学で教育実習を実施させて頂きました。体育・保健共に授業では全学年女子を、学級では3年生を(道徳も含む)、部活動ではバスケットボール部を担当しました。

教育実習で学んだことは大きく二つあります。一つは教育者の姿勢です。教師が生徒に与える影響は非常に大きい。このことから、言葉の選択や指示の出し方、けじめを示した態度で接することの大切さを学びました。もう一つは生徒理解の大切さです。家庭環境や生徒一人ひとりの置かれている状況を正確に把握することが個に応じた指導、問題の早期発見に繋がることを痛切に感じました。そのために特に休み時間の使い方には気を使いました。校庭で共に体を動かしたり、教室で話をしたり、保健室が居心地のよい子どもたちと保健室で話をしたり。様々な子どもたちと接する時間を平等に扱うことに努めました。

教育実習中徹夜続きになり減った時期もありましたが、大学を離れていても気にかけてくださったゼミの木村一彦先生をはじめ多くの方に支えられ乗り切ることができました。そして何と言っても、現場では子どもたちのあたたかさに救われました。後日、教員採用試験に合格したことを報告しに行くと、皆自分のことのように喜んでくれて、お祝いにとアンジェラ・アキの「手紙～拝啓十五の君へ～」を歌ってくれました。偶然にも私が教師を目指したのは十五の時だったので甚く感動していると、中学校保健体育科教師を目指している他学級のある女子生徒から手紙を貰いました。その手紙には、『私も何年後かには大平先生みたいに合格します!』と書かれていました。私のような実習生が少しでも力になれたかと思うととても嬉しく、込み上げてくるものがありました。

教育実習での経験はこれからの長い教員人生において貴重な財産となりました。初心を忘れずに、自己研鑽に励んでいく所存です。

教育インターンシップ

先生方や子どもたちの姿から多くのことを学びました

体験から学べること

初等教育学科 2年 板垣 敬太

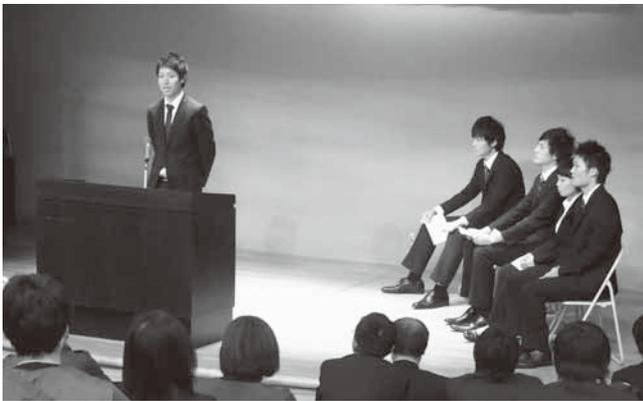
私はアシスタントティーチャーとして、横浜市内の小学校に週一日通わせていただいています。そこでは、普段講義で学ぶこととは違った多くのことを学ばせていただいています。なかでも私が学べてよかったと思ったことは、現場の教職員の方々の深い愛情と意識の持ち方です。例を挙げますと、一つ目の点については、私は特別支援学級でお手伝いをさせていただく機会が多いのですが、指導されている先生方は、そこで生活する児童が将来一人でちゃんと生活できるようになってほしいという願いのもとに、レストラン学習などといった、なかなか一人ではすることのできない体験活動を取り入れ、通常級の先生と特別支援学級の担任の先生とで、放課後も綿密なコミュニケーションを取って、児童の精神的・身体的機微にも気を使いながら

お仕事をされていて、深い愛情と思いやりを感じました。

二つ目の点については、宿泊体験学習の際に学ぶことができたことです。宿泊体験学習はとにかく児童たちは終始興奮状態です。そこで一番気を付けなくてはならないことは、怪我や事故です。下見の段階や打ち合わせの段階から、起こりうるリスクを想定して回るコースを考慮されたり、児童たちの負担を極力減らすようなタイムスケジュールを組まれたりされていて、私はこのときに、現場の先生方はこういった意識や視点を持ってお仕事されているのだと感じることができました。

ここでは学びのすべてを書き記すことはできませんが、百聞は一見にしかずという言葉の通り、私は多くのことを日々体験から学ぶことができています。こういった体験をさせていただき多くのの方々へ感謝の気持ちを持って、これからも多くの体験を通して、日々成長したいと思います。

第2回教育インターンシップ連絡協議会開催



活動報告は、初等教育学科2年の深澤文貴さんと園田貴教さん、岩永渚さん、健康体育学科3年の中村達也さんと小川達也さんの5名が行いました。緊張感一杯で活動を始めたこと、子どもや先生方と交流し自分自身の成長にも気づいたこと、教職への思いなど、それぞれの経験をもとに報告がありました。

元石川小学校の小林ゆかり先生と青葉台中学校の鈴木美幸先生から、各校の活動の様子、特に学生の成長の様子について具体的にお話いただきました。また、新石川小学校の荒川美代子校長先生からは、教職に向け、「学校での活動を通して自分の力で学ぼうとする意識」についてお話していただきました。

平成24年12月6日(木)、講堂にて第2回教育インターンシップ連絡協議会を開催しました。

教育インターンシップ報告会も兼ね、学生と受入校の先生方との意見交換、交流の場とすることができました。

平成24年度教育インターンシップ実施状況報告、学生による活動報告、受入校の先生方からのお話、という形で



会を進める中、体験を通じた思いから生まれた学生の言葉や先生方の温かくも厳しいお話から、教職に向けての大きな刺激を受ける時間となりました。



教育ボランティア

活動から学んでいます

餅つき大会

初等教育学科 2年 岩永 渚

教育インターンシップでお世話になっている元石川小学校の餅つき大会に1、2年生8名で参加しました。今回は、「遊歩道祭り」と一緒になったため、各ブースでゲームや工作や屋台などとてもにぎやかでした。横浜桐蔭大学の学生も一緒に学生ボランティアとして参加なさっていて、他大学の学生とも交流をもつことのできるよい機会となりました。私たちは今回各ブースのお手伝い、お餅や豚汁に並ぶ列の整備を手伝わせていただきました。私は、毎週元石川小学校で教育インターンシップの活動を行っていたので大体の場所の把握はできていましたが、いつもは児童と授業の中で関わることが多かったため、違った雰囲気

の様子から子どもたちが行事に純粋に楽しんでいる表情を見ることができました。

私が驚いたのは、お手伝いをなさっていた保護者の数の多さです。私のイメージでは先生とPTAの方を中心として少しの保護者で行事を行うのかと思っていましたが、実際は私が想像していたよりも多くの保護者の方々が中心となって行事を盛り上げていたと感じました。先生方、児童、保護者、学生と普段生活する中であまり交流することのない立場の人々がその日の行事のために一生懸命に、全力で楽しむという瞬間、時間はとてもいいものだと思います。学校は児童と先生だけではなく、地域のいろいろな立場の人で成り立っているものだと再認識することができました。大学で講義を受けているだけでは経験できない、とてもいい経験ができたと思います。

未来塾

「人間開発は人づくり」をモットーに！

教育実践総合センター学生支援療育事業としてスタートした「未来(みらい)塾は、今年度も以下の講座が開講されました。開講講座は11講座、延べ受講者数は641名でした。

講座名	担当	開講場所・開講期間
「健康体育を考える」&「中・高、学習指導要領解説【保健体育】を読む」講座	木村一彦 教授	28回開講、 延べ受講者数70名
「臨海学校・遠泳プログラムの見学及び小遠泳体験」講座	木村一彦 教授 原 英喜 教授	千葉県南房総市 8月に1泊2日 受講者数6名
体育授業、体育的、集団宿泊的行事としてのスキー研修講座	木村一彦 教授 原 英喜 教授	長野県山内町一ノ瀬にて2泊3日 で開講、受講予定者数4名
「柔道基礎力養成(昇段に向けての通年講座)」講座	上口孝文 教授	16回開講、延べ受講者数90名
「体育・スポーツ・健康関係雑誌交読会」講座	一 正孝 教授	12回開講、延べ受講者数18名
「楽しい保育教材研究」講座	石川清明 准教授	23回開講、延べ受講者数217名
ピアノ講座 A「ピアノ講座」(ピアノ初心者用講座) B「幼稚園実習対策ピアノ講座」 (4年次幼稚園実習受講者対象講座) C「教員採用試験対策ピアノ講座」 (次年度教採試験受講者対象講座)	高山真琴 准教授	50回開講、延べ受講者数73名 3回開講、延べ受講者数15名 21回開講、延べ受講者数33名
「杖道・居合道実践」講座	阿部弘生 助手	52回開講、延べ受講者数110名
「泳げるようになろう」講座	原 英喜 教授	横浜国際プールにて 3回開講、延べ受講者数5名

思ひ草

第10号

平成25(2013)年2月28日 発行

明日どのような花を咲かせるか ~『贈る言葉』~

人間開発学部長 しんとみ やすひさ 新富 康央



人間開発学部1期生が卒業します。今回は、教育ボランティアやインターンシップ、教育実習などでお世話になった皆様に御礼を込めて、彼らへの「贈る言葉」を要約して述べさせて戴きます。先生方が育ててくださった種子から、「明日どんな花が咲くか」、楽しみにしています。ありがとうございました。

* * * * *

卒業おめでとう。人間開発学部1期生の皆さんと学部創設したばかりの私たち教員は、羅針盤も航海図も持たない船出でした。まさに「響同」と「共育」の世界。共に走りながら、互いにどうすべきかを考えました。しかし、目指す教育理念は、「教育の前に、人間開発あり」。①「損在」に陥った子どもを掛け替えない大切な「尊在」に変える教師、②頑張ることを応援する教師、③心の手当てができる教師。こうした「本物」の指導者を指すということでした。

卒業おめでとう。学部づくりの協力への感謝の気持ちを込めて、「僕がいて、君がいる。それだけで十分だ。さあ、始めよう」の言葉を贈ります。私たちが課した、卒業に向けての一番の宿

題は、「出会い」づくりでした。4年間で得た「出会い」こそ、大切な宝。人生の岐路に立った時、「出会い」を思い出そう。

卒業おめでとう。人生に卒業はありません。常に挑戦です。卒業式'commencement'とはラテン語で、「始まり」の意。「がんばれ!」と、エールを贈ります。しかし、別の言葉も贈りたいと思います。「雨ニモ負ケテ、風ニモ負ケテみれば、楽になるよ」、と。人生に疲れた時は、「雨ニモ負ケテ、風ニモ負ケテ」みる勇気も必要です。

卒業おめでとう。私が疲れた時つぶやく言葉、それは'Ich bin noch jung.'(私はまだ若い)。青春、それはチャレンジ、トライ。心のみずみずしさを失わないで欲しい。心のみずみずしさを失わなければ、いつまでも青春なのです。

卒業おめでとう。「愛する自分を大切に」して、社会の各分野で活躍されることを祈ります。社会に出て、どのような花を咲かせるか、私たちも、そして、皆さんも分かりません。まさに、「人間開発」です。

雪に耐え梅花麗し

人間開発学部 教授(就職対策委員)

えびさわ れいじ 海老沢 礼司



我が家の狭い庭には3種類の「ホ」の字の多年草がある。「鬼灯(ほおずき)」初夏に小さな白い花を付け、やがて赤い実になる。2つ目は「蛭袋(ほたるぶくろ)」、7月から、淡いピンクや紫の釣鐘型の花を次から次と楽しませてくれる。3つ目は「杜鵑草(ほととぎす)」だ。鳥のほととぎすの腹のまだら模様が花弁の模様に似ているところから名前が付けられたと言われている。10月ごろから小さな花を付ける。日本には11種類あるが、我が家には5種類ある。

これらの花は元々近くの野山で良く見ることが出来たが、現在は殆ど見ることが出来ない。これらの山野草は実にタフである。踏まれても、風雨に倒され、折られてもまず枯れることがない。しかも、蛭袋と杜鵑草は添え木したり、植え替えたり、肥料を与えると小さな花は12月になっても楽しませてくれる。秋になると新芽が一面に顔を出し、若葉は霜雪に耐え、翌年、また、可愛い花が心を癒してくれる。鬼灯は冬の間、地中に真っ

白な太い根を縦横に張り巡らし、春にはあらゆる処から若茎を発生させている。

この山野草を眺めていると、もうすぐ「先生」になる1期生をダブらせてしまう。採用試験合格に向け、学科試験だけでなく「論作文」「模擬授業」「面接」場合によっては「集団行動」「実技」など、当にトライアスロンか、陸上競技の7種、10種競技のように他種目に挑戦してきた。そして4月から殆どの者は「先生」とし、生徒の前に立つが、おそらく楽しいことだけでなく、「指導の困難さ」「先生同士の付き合いの難しさ」など幾多の障害やストレスが待ち構えている。しかし、1期生の君たちは挫折せず、何時もタフで枯れない山野草のように、かわいい花を付ける。

そして「雪に耐え、梅花麗し」となることを信じている。

